

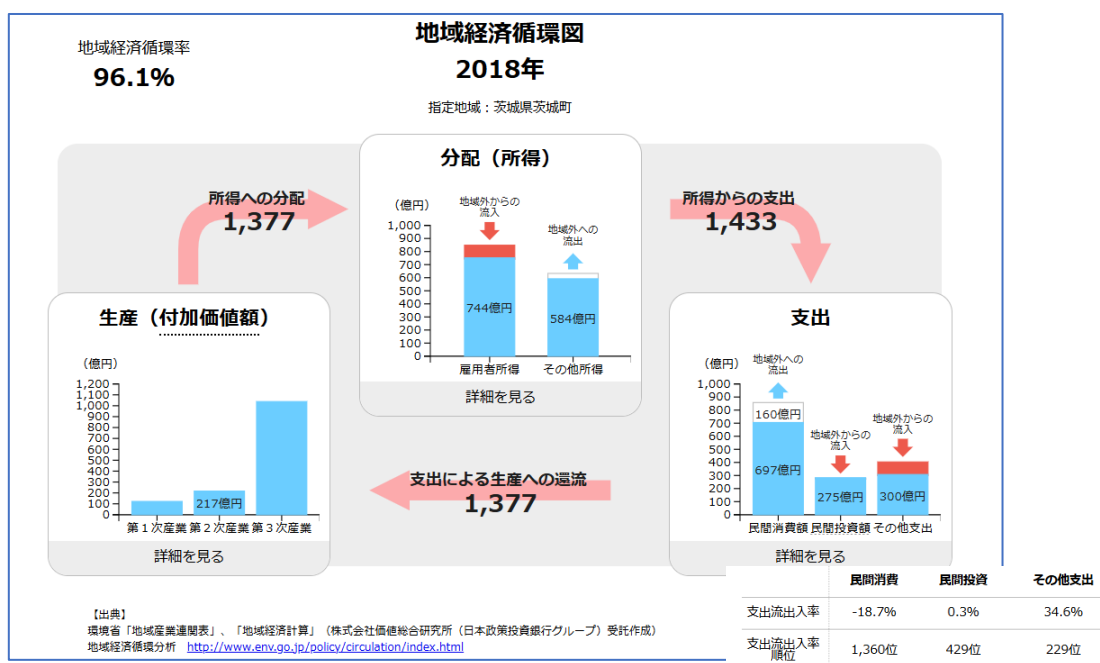
RESAS を活用した茨城町経済の分析結果報告

1. 地域の全体像

地域経済循環図を見ると、域内の産業によって「生産」された付加価値額 1,377 億円のうち第 3 次産業が 1,038 億円、75.4%を占める。「分配（所得）」は、雇用者所得は域外から流入している（雇用者所得の流入とは、この地域の方々が地域外に勤務して、給料等をこの地域に持ち帰っている状態のこと）のに対し、その他所得は域外へ流出している。

分配された所得が域内でどのように使われているかを示す「支出」は、民間消費額は域外へ流出している（地域で稼ぎ、地域で得た所得が他地域へ漏れていることになり、企業の新たな生産販売活動に繋がらず、地域の経済循環がうまく機能していない可能性がある）一方で、民間投資額・その他支出については流入超過となっている。

地域経済循環率は 96.1%と比較的高く、生産と分配はバランスしている望ましい状態と言える（茨城県の地域経済循環率は 103.2%）。



※地域経済循環率…「生産（付加価値額）÷分配（所得）」より算出され、域内で生み出された所得がどの程度域内に環流しているかを把握するもので、自治体ごとの特徴を表す。

100%を超える場合（生産＞分配）は、稼ぐ力は高いものの、当該地域で生産された付加価値額が分配される際に地域外に流出していると考えられる。また、100%未満の場合（生産＜分配）は、当該地域で生産された付加価値額に加えて、地域外で勤務することによる雇用者所得や、交付金、社会保障給付等の財政の再分配に大きく依存している可能性がある。一概にどちらが良いということはなく、一般的には 100%前後の値となっており、生産と分配がバランスしていることが望ましいと言える。

※生産…大雑把に言うと、「売上」から「仕入や外注費等の費用」を差し引いた額であり、地域の稼ぎを分配する前の「もうけ」の総額を示している。地域の経済を生産面で支えている産業が何かなどがわかる。

※雇用者所得…主に労働者が労働の対価として得る賃金や給料等をいう。

※その他所得…財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等、雇用者所得以外の所得により構成される。

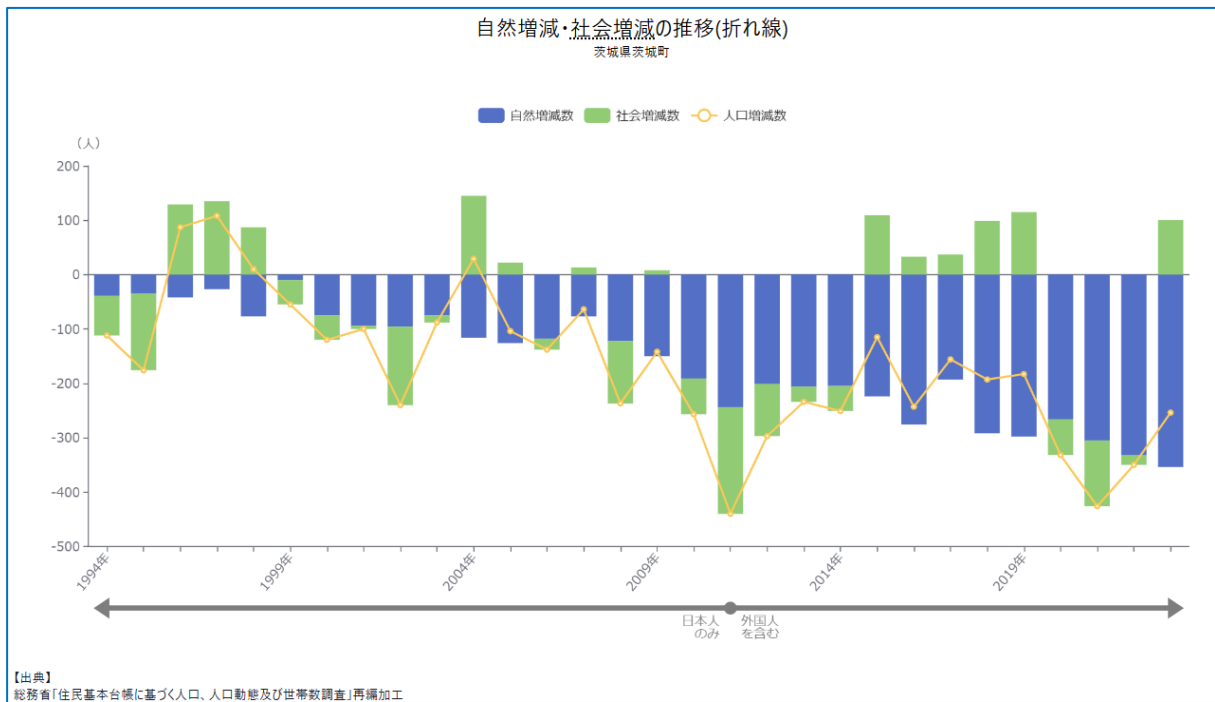
※その他支出…「政府支出」+「地域内産業の移輸出-移輸入」により構成される。例えば、移輸入が移輸出を大きく上回り、その差が政府支出額を上回る場合（域外からの財・サービスの購入を通じた所得流出額が政府支出額よりも大きい場合）は、「その他支出」の金額がマイナスとなる。

※支出流出率…地域内に支出された金額に対する地域外から流入・地域外に流出した金額の割合で、プラスの値は地域外からの流入、マイナスの値は地域外への流出を示す。

2. 人口の動き

茨城町の総人口は 31,401 人（2020 年）で減少が続いている。また、生産年齢人口は 17,040 人（54.27%：2020 年）から 12,467 人（49.26%：2040 年）に減少することが推計されている。

人口増減の要因をみると、1999 年度より自然増減は一貫してマイナスで推移、社会増減は一定期間の増減が認められる。

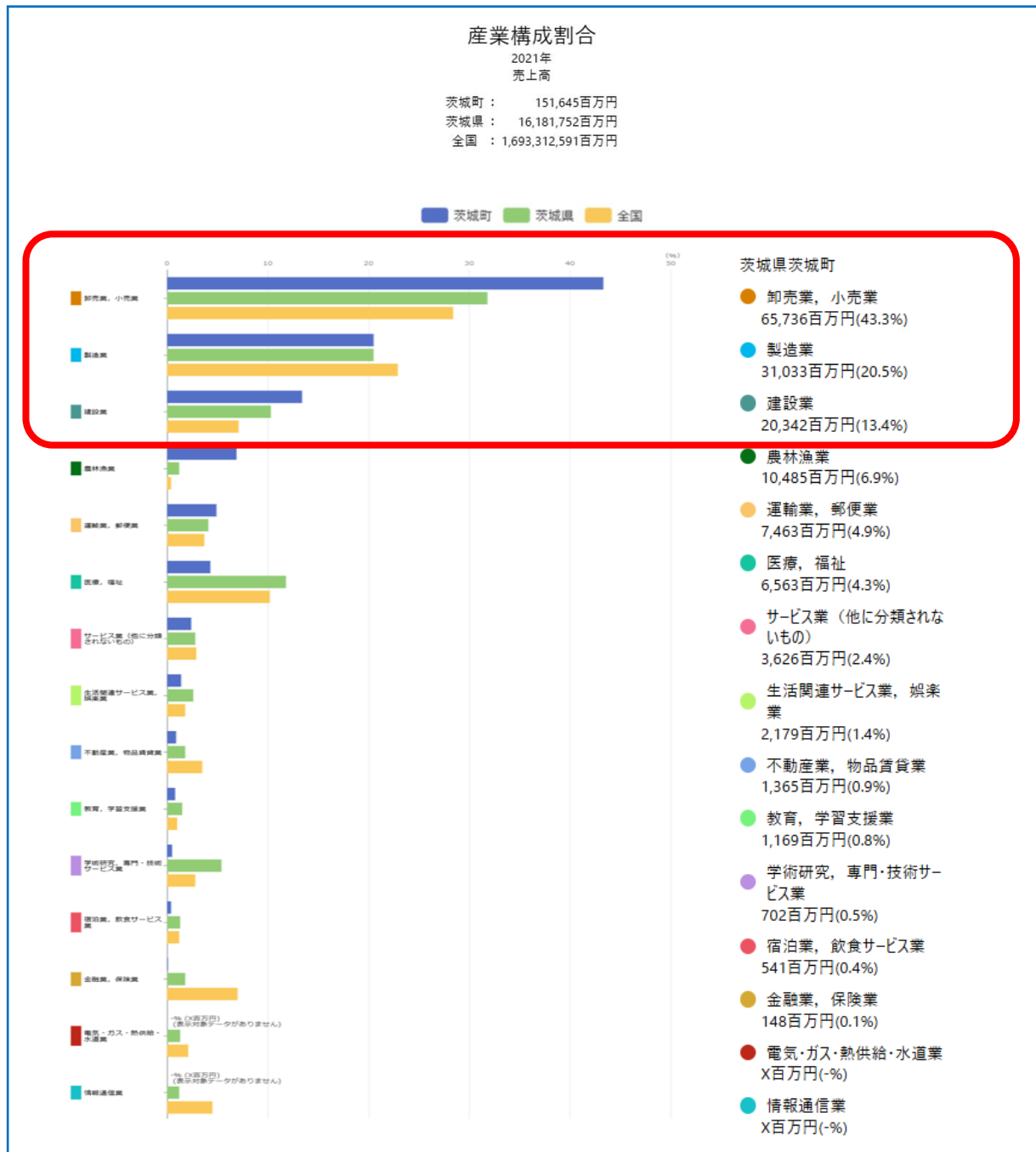


3. 地域における産業構造

(1) 産業構成

全産業の構造の売上高（大分類）でみると、「卸売業、小売業（43.3%）」、「製造業（20.5%）」「建設業（13.4%）」の構成割合が大きく（合計 77.2%）、主要産業といえる。

一方、全産業の構造の付加価値額（大分類）でみると、売上高に比して「卸売業、小売業（26.6%）」の構成割合は小さく、高い付加価値をあげられていないことが分かる。



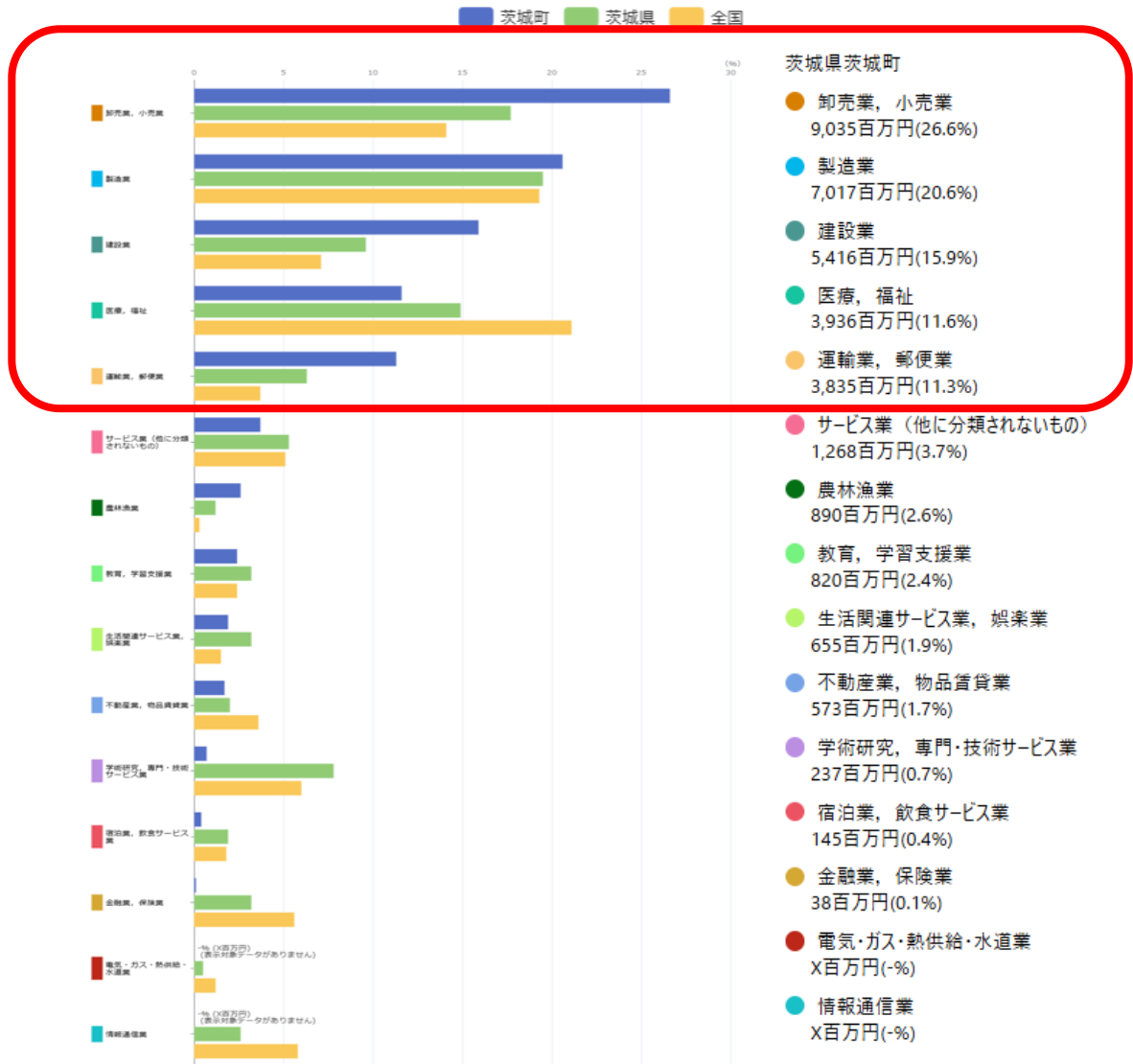
産業構成割合

2021年
付加価値額

茨城町 : 34,024百万円

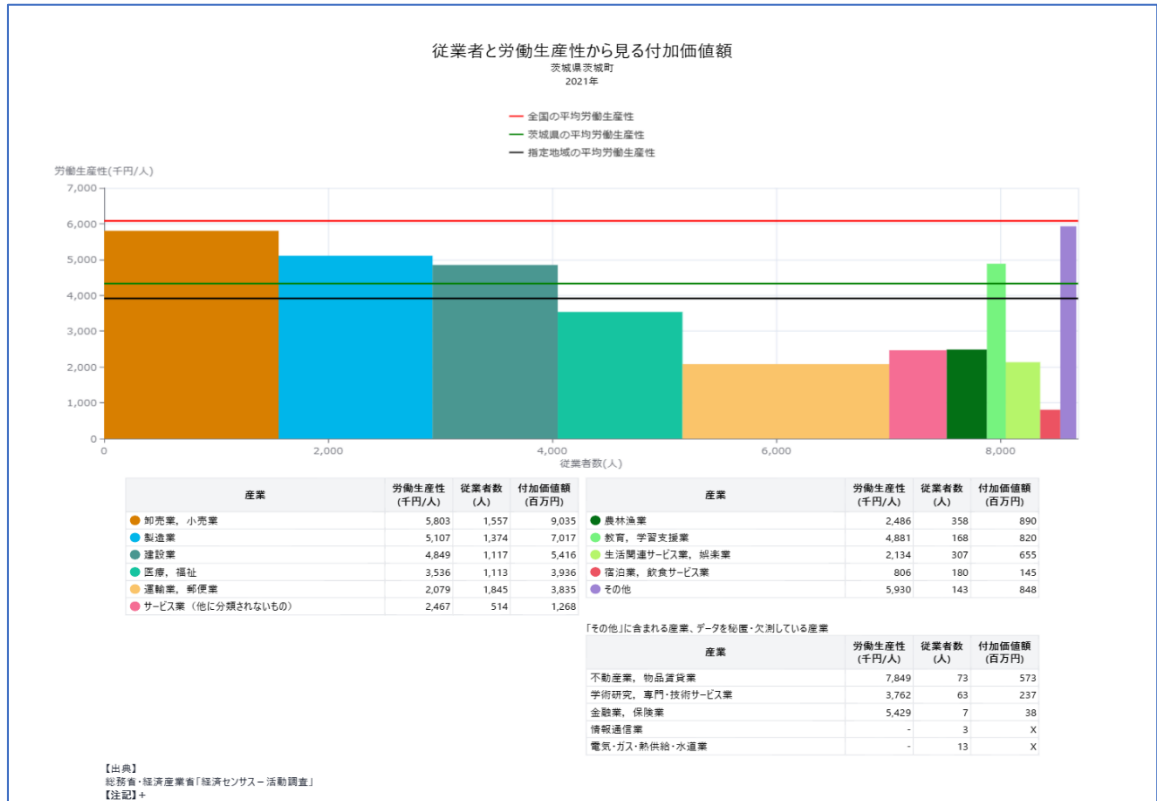
茨城県 : 3,709,237百万円

全国 : 336,259,518百万円



(2) 付加価値額の構造

産業ごとの付加価値を大きい順に並べたもの。茨城町の平均労働生産性は、全国平均や茨城県平均に比べて低い。また、主要産業のうち、「卸売業、小売業」は、2016→2021年で、労働生産性・従業員数・付加価値額がいずれも下がっている。「教育・学習支援業」で労働生産性と付加価値額の伸びが大きい。



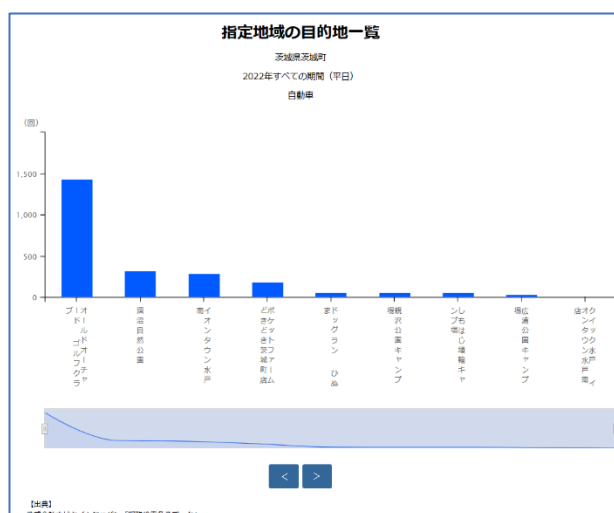
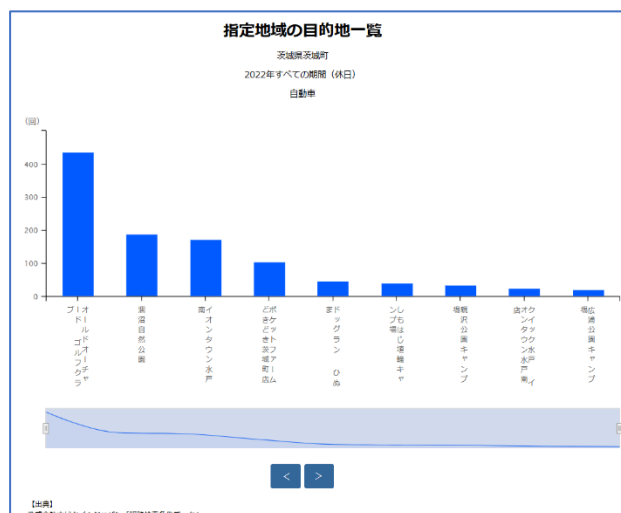
※全産業の付加価値額をスカイラインチャートで表示したもの。スカイラインチャートでは、X 軸で従業員数を、Y 軸で労働生産性を、面積で付加価値額を表示している。



※産業別増減率。指定年での各産業の増減率を確認したもの。

4. 観光に関する分析（国内動向）

国内旅行者の 2022 年すべての期間における目的地分析（交通手段は自動車）の結果は、休日・平日ともに、「オールドオーチャード ゴルフクラブ」「涸沼自然公園」「イオンタウン水戸南」「ポケットファームどきどき茨城町店」の順に目的地検索が多いが、検索回数は少ない。なお、交通手段を公共交通機関に指定した場合は、「オールドオーチャード ゴルフクラブ」「イオンタウン水戸南」の 2 件がそれぞれ 100 件程度という結果である。なお、居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合に関するデータはない。



5. 分析結果から導き出された茨城町の特徴と課題

- ①産業構造を売上高(企業単位)で見ると、「卸売業、小売業（43.3%）」、「製造業（20.5%）」「建設業（13.4%）」の構成割合が大きく（合計 77.2%）、主要産業といえる。
- ②全産業の構造の付加価値額（大分類）でみると、売上高に比して「卸売業、小売業（26.6%）」の構成割合は小さく、高い付加価値をあげられていない。また、「卸売業、小売業」は、2016→2021 年で、労働生産性・従業員数・付加価値額がいずれも下がっている。
- ③全体的に地域内の労働生産性は低く、仕事内容や進め方の見直し、付加価値の向上、顧客・販路拡大等を推進することにより、さらなる労働生産性の向上を目指していくことが重要である。
- ④国内旅行者の 2022 年すべての期間における目的地分析（交通手段は自動車）の結果は、休日・平日ともに、「オールドオーチャード ゴルフクラブ」「涸沼自然公園」「イオンタウン水戸南」「ポケットファームどきどき茨城町店」の順に目的地検索が多いが検索回数は少ない。観光地としては訪れてみたい要素が少ない地域といえ、観光客の誘致のためには、観光資源をうまく活用し、そこでしか見られない地域の魅力、そこでしか体験できない独自の魅力を掘り起こしていくことが重要と考えられる。